

2021年10月18日(月) 山陽新聞[メディカ]

日本脳卒中協会岡山県支部
専門医6人公開講座
12月31日までオンライン

日本脳卒中協会岡山県支部は市民公開講座をオンラインで配信している。6人の専門医が登場し、脳卒中の予防や治療法などについて解説している。

脳卒中を発症する患者は年間約30万人で、国内の死因で第4位、年間10万人以上が亡くなっているとされる。運動まひや感覚障害、失語症と言った障害が残ることも多く、寝たきりとなる原因のトップでもある。

公開講座は無料で申し込み不要。日本脳卒中協会岡山県支部のホームページなどから閲覧できる。配信は12月31日まで。

配信プログラムは次の通り。

【講演1】「脳卒中・循環器病対策推進基本計画―脳卒中協会の活動について」(宇野昌明・日本脳卒中協会岡山県支部支部長)

【講演2】「脳卒中とその現状」(八木田佳樹・日本脳卒中協会岡山県支部副支部長)

【講演3】「脳卒中の危険因子と予防」(大山直紀・川崎医科大学附属病院脳卒中科副部長)

【講演4】「こんな症状がでたら脳卒中を疑いましょう」(岩永健・岡山赤十字病院脳卒中科部長)

【講演5】「脳梗塞急性期の内科治療(r t - P A 静注療法)」(井上剛・日本脳卒中協会岡山県支部副支部長)

【講演6】「脳卒中に対する血管内治療」(松原俊二・川崎医科大学附属病院脳神経外科副部長)